

【テーマを設定する】

★5歳児

園独自の取り組みとしてはちゃめちゃあそび(五感を使って様々な感触遊び等を夢中になって遊びこむ活動)を年間計画として実施している中で、より様々な素材に触れることで子どもたちの五感を育んでいくことができると感じるとともに、様々なものに触れることで「〇〇みたい」と感じたことを見立てる姿が見られたため、より想像力を育んでいくことができると感じた。様々な素材の違いだけでなく、同じ素材でも種類によっても違いがあることへの興味に繋がるよう、公園で砂を掘って見たら違う色の砂が出てきたことに興味を示し、様々な公園で掘って探究を進める姿が見られた。また、地域交流で近隣保育園にどろんこ遊びをさせてもらいにいった際に泥団子を作っている様子をみて同様に泥団子を砂で作ってみる姿があった。砂の大きさや色への興味関心と泥団子への興味関心を深め探究につなげていくためテーマとして設定する。

【活動スケジュール】

◆5歳児◆

4月	紙の感触を楽しもう	7月	泥団子をつくってみよう
5月	土って全部同じ？	8月	どうやったらふわふわの泡になるのかな？
6月	泥の感触を存分に味わおう	11月	油粘土と紙粘土の違いはなあに？

活動①紙の感触を楽しもう ～5歳児～

●問いを考える

・子どもたちが日ごろから紙をちぎったり丸めたりする遊びを楽しむ姿から、同じ『紙』でも素材や形状が違うことで、触った感じや遊び方はどのように変化するのかに着目した。そこで「ふわふわしたお花紙と、細長い紙テープではそんな違いを感じるだろう」「触った感じの違いからどんな遊びが生まれるだろう」という問いをもとに、さまざまな素材に触れながら感触を味わい、遊びを広げられるよう活動を計画した。

●環境をデザインする

- ・広い部屋
- ・色とりどりのお花紙
- ・紙テープ
- ・マスキングテープ



●探究活動を実践する

- ・保育室いっぱいに広げたお花紙に触れ、舞わせたり、ちぎったり、集めたりしながら軽さや柔らかさ、ふんわりとした感触を全身で楽しんだ。
- ・カップに入れて「ジュース」「アイス」などに見立て、素材の特徴を活かしたごっこ遊びへと発展していった。
- ・同じ紙でも質感の異なる色とりどりの紙テープを用意すると、「こっちはつるつるしてる」「長いね」「びっばれるよ」など、違いに気づき、紙テープを壁や棚に張り巡らせながら、友達と相談しあい、「ここを入り口にしよう」「蜘蛛の巣みたい」などイメージを共有し、秘密基地へと遊びが広がっていった。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動を通して、子どもたちは同じ『紙』という素材でも、形状や質感の違いによって触ったときの感覚や遊び方が変化することを、実際に触れて感じとっていた。
- ・お花紙では柔らかさや軽さを活かした遊びが始まり、紙テープでは長さや張り、しなやかさを活かして空間構成を楽しむ姿がみられた。
- ・素材に触れて感じたことを言葉で表現したり、友達とイメージを共有しながら遊びを発展させていく姿から、感触をきっかけに発想力や協同性が育まれていることに気づいた。今後も素材の違いに着目しながら、子どもたち自身が発見や試行錯誤を楽しめる環境を整えていきたい。



活動②土って全部同じ？ ～5歳児～

●問いを考える

・戸外遊びの中で、公園の木の根元を掘り進めるうちに、「上の土と下の土で色が違う」「つめたい土がある」など土の変化に気づく姿が見られた。また、別の公園では砂の色や粒の大きさの違いにも関心をもち「なんで違うのだろう」「同じ土なのに・・・」という疑問が生まれた。そこで「公園によって砂や土はどのような違うのか」「触った感じや見た目にはどんな違いがあるのだろう」という問いをもとに、実際に様々な場所で土や砂に触れ比較しながら探究できる活動を計画した。

●環境をデザインする

- ・様々な近隣の公園
- ・スコップ
- ・ジップロック



●探究活動を実践する

- ・戸外活動の中で複数の公園に出かけ、それぞれの場所で砂や土に触れたり、掘ったりしながら違いを確かめた。
- ・子どもたちは「こっちはさらさらしているね」「こっちは冷たい」「黒っぽいね」「砂はさらさらしてる」など、手触りや色、温度の違いに気づき、言葉にする姿がみられた。
- ・興味を持った砂や土は少量ずつ集めてジップロックに入れ保育室に持ち帰り比較できるようにした。
- ・「どうして近くの公園なのに粒の大きさや色が違うのかな？」「水を入れたらどうなるのかな？」「泥になる？」などと気づいたことや考えたことを友達と伝え合いながら、違いを確かめようとする姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動を通して、子どもたちは砂や土どれも同じではなく、場所や深さによって色や粒の大きさ、温度、感触が異なることを自分の手や目を使って確かめながら実感していた。
- ・比較を重ねていく中で、「同じ茶色でも少しずつ違うね」「水を入れたらすぐに泥になったものとならなかったものがあるよ」「砂はさらさら、土はぺたぺたする」と違いだけでなく特徴や変化にも目を向ける姿が見られた。
- ・身近な自然物に触れ、疑問をもって集め、比べ、友達と共有する経験を通して、子どもたちの探究心や、自分なりに気付いたことを言葉で表現する力が育まれていることを感じた。



活動③どろの感触を存分に味わおう ～5歳児～

●問いを考える

・これまで公園で砂や土に触れたり、集めて比較したりする中で、子どもたちから「サラサラの砂とぺたぺたの土があるね」「水を入れるとどうなるのかな？」といった声がきかれるようになった。砂や土に水が加わることで感触がどのように変化をするのか、実際に前進で触れながら確かめたいという思いから近隣の保育園のどろんこ場をお借りし、「水が入ると土はどう変わるのだろう」「触った感じはどう違うのだろう」という問いをもとに活動を計画した。

●環境をデザインする

- ・どろんこ遊びができる近隣の保育園
- ・汚れても良い洋服
- ・スコップ
- ・ジップロック
- ・裸足で行う
(手だけでなく足でも感触を味わえるように)



●探究活動を実践する

- ・近隣の保育園を訪れ、裸足や手を使って泥に触れながらどろんこ遊びを行った。
- ・初めはそっと足先で触れていた子どもたちも感触を確かめるうちに、少しずつ全身で泥に触れる姿が見られた。
- ・「つめたい」「とろとろする」「ぬるぬるする」「こっちは固いの、こっちはやわらかいよ」など、泥の温度や柔らかさ、粘り気、水の量による変化に気付く声が聞かれた。
- ・バケツやタライで友達と力を合わせて水を運びながら「もっと水を入れたらどうなるかな？」「水が少ないとお団子ができる」など、友達と試したり、比べたりしながら、自分たちなりに泥の状態の違いを確かめる姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動を通して子どもたちは土に水が加わることで、感触や形状は大きく変化することを、手や足、全身をつかって実感していた。
- ・「水がいっぱいだととろとろになる」「水がすくないと丸められる」「同じ泥でも冷たいところを温かいところがある」など自分が感じたことを言葉にしなが泥の変化や違いに気付く姿が見られた。
- ・友達と「どっちがやわらかいかな？」「もっと水をいれてみよう」と試行錯誤を重ねる中で、感触の違いを比較したり、予想しながら確かめたりする姿へと探究が深まった。
- ・砂、土、泥と素材の変化を連続的に体感することで、身近な自然物への興味や自ら試してみる力が育まれていることを感じた。



活動④どろだんごをつくってみよう ～5歳児～

●問いを考える

・絵本の中に出てきたピカピカの光る泥団子を見たり、近隣の保育園の子が泥団子を食べる姿に触れたことで、子どもたちから「どうしてピカピカになるの?」「つくってみたい」という声が聞かれた。これまでの活動の中で公園ごとに砂や土の色、粒の大きさ、感触に違いがあることに気付いていた子どもたちから「どんな砂を使うとピカピカになるんだろう」「砂の違いでできあがり変わるのかな?」という問いをもち活動②で集めた様々な砂や新たな感触の土を使って泥団子づくりに挑戦する活動を計画する。

●環境をデザインする

- ・荒木田の土
- ・砂
- ・活動②の砂
- ・さら砂
- ・泥団子キット
- ・様々な布
- ・空き瓶



●探究活動を実践する

・これまで集めてきた色や粒の大きさの異なる砂を並べ、それぞれの感触を確かめながら泥団子づくりを始めた。
・「この砂サラサラしているね」「こっちは粒が大きいね」「白い砂の方がきれいになるかな」「黒い土の方がかたそう」と、砂の感触を確かめながら、自分なりに使う素材を選んでいった。
・泥を丸める中では、「強く握ったら崩れちゃった」「優しく丸めると良いかも」「水が多すぎるとべたべたする」「少し乾かしたら色が変わってかたくなった」等、泥の状態の変化に気づきながらも何度も試す姿が見られた。
・さらに、砂をかけたり、手のひらで転がしたりしながら、友達と見比べたり情報を共有したりしながら試行錯誤を重ねていた。
・ピカピカにしたいためにはどうしたら良いのだろうと絵本で調べて実際に様々な素材の布(木綿、デニムなど)でこすってみたり、ビンの口でこすってみたりと試行錯誤する姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を通して、子どもたちはただ丸めるだけではなく、水分量や乾かす時間、使う砂の種類、触り方によって仕上がりが変化することを実際に試しながら実感していた。
・活動後には、「細かい砂のほうがつるつるになった」「水が多すぎると丸くならなかった」「少し乾かして砂をかけると光っているところがあった」など自分なりに見つけた方法や気づきを言葉にする姿が見られた。
・これまで集めた砂や土への興味が、比較や予想、試行錯誤を伴う探究活動へとつながり、素材の違いに着目しながら自分なりの方法を見つけ出す姿が見られた。
・友達と、気づきを共有しながら繰り返し挑戦する中で、探究心や粘り強く取り組む力が育まれていることを感じた。



活動④ どうしたらふわふわの泡になるのかな? ～5歳児～

●問いを考える

・日常生活の中で手洗いをする際の泡や戸外でシャボン玉遊びを楽しむ中で、子どもたちは泡に親しみを持っていた。また、はちやめちゃ遊びで全身を使っただくさんの泡に触れた際に、「ふわふわで気持ちいい」「アイスみたい」「ケーキのクリームみたい」という声がきかれた。そこで「ケーキのクリームみたいなもつとふわふわの泡はどうしたらできるのだろう」「泡の量やかたさは何で変わるのだろう」という問いをもとに活動を進める。

●環境をデザインする

- ・外用の机
- ・固形石鹸
- ・ボウル
- ・すりおろし器



●探究活動を実践する

・固形石鹸をおろし器で削り、ボウルに入れて水を加えながら泡だて器で混ぜる活動を行った。
・子どもたちは素材に触れながら「石鹸チーズみたい」「いい匂いがする」「なかなか泡にならないね」と石鹸の香りや形、状態の変化に興味をもっていった。
・水の量や混ぜ方を替えながら泡立てていくことで、「いっぱい混ぜたら白くなってきたよ!」「水が多いとスプーンみたいだね」「水を少なくするとクリームみたいになるよ」「腕が疲れるけどたくさん混ぜたらどんどんふわふわになる」と泡の変化に気づきながら繰り返し試す姿が見られた。
・できた泡に触ったりすくったりしながら「ほんとうにケーキみたい」「角みたいになっているよ」「こっちの方がもこもこしてる」と見た目や感触の違いを友達と比べながら楽しんでいった。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を通して子どもたちは泡はただ自然にできるものではなく、水の量や石鹸の状態、混ぜる回数や速さによって、感触や見た目が変化することを実施に試しながら実感していた。
・活動後には「いっぱい混ぜるとふわふわになった」「石鹸を細かくした方が泡がいっぱいできた」「クリームみたいにするには、あきらめないことが大事だね」と自分たちなりに見つけたことを言葉にする姿が見られた。
・日常の中で触れている泡に対して、「どうしたら変わるのか」「何が違うのか」と疑問を持ち、予想し、試しながら確かめる経験に繋がった。また、友達と気づきを共有しながら繰り返し挑戦する中で、感触の違いを楽しむだけでなく、比較・試行錯誤・発見する力の育ちを感じた。



活動⑥紙粘土と油粘土の違いはなあに？ ～5歳児～

●問いを考える

・これまで紙や砂、土、泥など様々な素材に触れながら感触の違いを楽しんできた子どもたちは、室内遊びの中で粘土遊びにも親しんでいた。油粘土や紙粘土に触れる中で「なんかいつもの違う」「こっちはふわふわしている」「こっちはかたいね」という声が聞かれ、同じ粘土でも感触や扱いやすさに違いがあることに気付き始めていた。そこで「同じ粘土でもどうして触った感じが違うのだろう」「どんなものが作りやすいのだろう」という問いをもち活動を計画する。

●環境をデザインする

- ・粘土板
- ・油粘土
- ・紙粘土
- ・絵の具



●探究活動を実践する

- ・油粘土と紙粘土の両方を準備し、見た目や重さ、におい、触った感触などを確かめながら自由に制作を行った。
- ・「なんか匂いが違うよ」「白い粘土マシュマロみたい」「いつもの年度はつるつるしていて重たいね」などそれぞれの第一印象を言葉にする姿が見られた。
- ・実際に丸めたり、伸ばしたり、ちぎったりする中で、「油粘土は固いけどくっつくね」「紙粘土はふわふわで軽い」「紙粘土の方がちぎりやすい」など、感触や形の変化扱いやすさの違いに気づきながら繰り返し試していた。
- ・作りたいものに合わせて、「ケーキは紙粘土の方がいいかな」「車はかたい粘土のほうが壊れないかも」と素材の特徴を考えながら選ぶ姿も見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・活動を通して、子どもたちは同じ粘土でも素材によって重さや柔らかさ、温度、匂い、伸びやすさなどが異なり作りやすいものや表現の仕方が変わることを実感していた。
- ・「紙粘土の方が使いやすかった」「油粘土はくっつけたりしやすかったよ」「油粘土は冷たいから暑い時にはちょうどいいよね」など試してわかったことや感じたことを言葉にする姿が見られた。
- ・素材に実際に触れ、比べ、試したりしながら特徴を見つけていく中で子どもたちの感触への興味がさらに深まり目的に応じて素材を選ぶ視点も育ってきていることを感じた。

